
US Open Junior 2014

Tournament Report

全国高体連テニス専門部 佐藤篤也 - 2014/09/05



参加者

選手	小林紀輝（秀明八千代高校）
選手	大河真由（秀明八千代高校）
団長	家弓 明丈（部長）
監督	赤田一則（副部長・近畿地区常任委員）
コーチ	佐藤篤也（関東地区常任委員）
コーディネーター	福永二郎（アメアスポーツジャパン）

第1日



25日、ホテル日航成田に集合し結団式をおこなった。始めに家弓部長から「派遣選手として選ばれたのだから、頑張ってもらいたい。そして、この機会を十分に活かして今後の選手生活及び千葉県選手、チームメイトに良い影響を与えて欲しい。」と激励の言葉があった。続けて小林紀輝選手が「USオープンジュニアへの機会を与えてくださった全国高体連テニス専門

部、アメアスポーツジャパン、西鉄旅行の皆様には感謝します。日本代表として、規律を守り最後まで諦めずに戦う。勝つには良いプレーをしなければいけないのですべてを出し切ってプレーする。」と力強い言葉。大河真由選手は「USオープンジュニアへの出場は光栄です。世界中の人々が目標としている大会なので、日本代表として責任をもちますが、楽しんで試合をしたい。せっかくに機会なので、胸をはって日本に戻れるように頑張ります。」と決意を語ってくれた。コーディネーターとして参加したアメアスポーツジャパンの福永さん、旅をアレンジしてくれた西鉄旅行の宮里さんは、例年になく選手のはっきりとした決意表明に感動していた。

第2日



26日、本日は移動日である。8時40分に成田空港へ移動。チェックインカウンターに二人の所属校である秀明八千代高校の浜口先生が見送りに来てくださった。夏季講習の忙しい中での見送りに選手の2人には大変心強かったようである。11時10分のフライトで機上の人となった。ちなみにフライト中、今話題の「アナと雪の女王」を含めて

映画を4本見ることができた程の時間であった。

JFK 到着は現地時間の10時30分、日差しは強いものの湿度が低いため、爽やかな印象である。現地ガイドの案内でマンハッタン島へ向かう途中、クイーンズの国連ビル、エンパイアステートビルを望む場所からイーストリバー越しに、これぞNYという景色を見て、アメリカを感じた。

その後、バッテリーパークから自由の女神を眺め、グラウンドゼロなどを見て、ホテル着。休む間も無く John McEnroe Tennis Academy に移動、ヒッティングパートナーの Mr.Zetsu、福永さんと1時間ほど汗を流した。時差ぼけ解消のための練習であったが、2人とも長旅の疲れも見せず、デコターフでの感触を確かめていた。

第3日

現地時間の27日、本日は1日練習日である。John McEnroe Tennis Academy でコートが確



保できたのが12時からということで11時にホテルを出発してまず1時間練習。昨日のコーチたちのアドバイスのおかげか、エラーが少なくなった感があった。大会会場と同じサーフェスのせいか、ジュニアの予選に出るであろうと思われる選手がたくさん練習をしていた。クラブ内でランチをとり3時からはオールコートでポイント練習。試合に向けて順調な仕上がり具合である。

第4日

28日、12時にエントリーのため、選手たちは10時30分に Mr.Zetsu の車で会場へ、われわれスタッフは Subway で会場へと向かった。選手たちはエントリーの際、身分証明のためパスポートが必要との事で前日に十分確認をした。



地下鉄は日本のそれと違って乗り心地はだいぶ悪い。しかし会場まで30分程で到着するのと、\$10か\$20の Metro Card を購入すると割引で行けるので、使い勝手は大変良い。しかも車窓から Queens の街並みがのぞめるので楽しんで行ける。そしていよいよ会場入りである。会場に着いて驚いたことはその人の多さである。有明で開催された南関東インターハイも全日本に比べたら人が多かったと思うが、こちら US Open の会場は休日の TDL の混みようである。どこもかしこも人だらけで、人の多さに圧倒された。

選手たちがプラクティスの間、われわれは初めて Arthur Ashe Stadium に入った。本日はスタジアムのほぼ最上段の席から試合を見た。上から見ると選手が豆粒程の大きさであるが、S. Williams やジョコビッチのサーブはとても早く見える。



その後すぐ選手たちと合流。プレイヤーズパスをもらってやっと選手の仲間入りである。

夕食に試合に向けての願かけを兼ねて「カツ丼」を食べに出かけた。NY は日系人も多いせいか、ほぼ日本と変わらない味のカツを食べて選手たちも満足したようである。ホテルへの帰り道に USOpen のオフィシャルホテルであるハイアットに立ち寄った。エントランスを一步入ると大会のロゴマーク。ロビーには選手もいて、否が応でも気分が盛り上がった。

夜9時に OP が発表され、大河選手が 10 時からの 1st round、小林選手は 3 ラウンド目と決まった。選手たちのコメントは以下のとおり。

大河選手

「8月26日、無事に JFK 空港に到着。チェックインまで少し時間があつたので現地ガイドの方に案内して頂き NY 市内を車で 3 時間程観光しました。初めての NY、近代的な

タワーや映画に出てくるような街並み、自由な雰囲気には圧倒されます。チェックインを済ませ、夕方からジョンマッケンローテニスアカデミーで一時間程練習を行い、夕食を取ってスケジュールを終了しました。飛行機で長時間の移動の後だったので体が動くか心配だったのですが、想定していたより軽く動くことができ、打感もクリアだったので気分良く練習を終える事ができてよかったです。



8月27日、前日同様ジョンマッケンローテニスアカデミーで練習を行いました。正午から夕方にかけて 2 時間半程打つたので、随分と感覚が掴めてきたように思います。特にサービスの確率が高く、振り抜きがいいのでこのまま試合に繋げていきたいです。ストリングを張り替えに出し、少し遅めの夕食を取ってホテルへ帰りました。移動やコートのブック等を現地でコーチをしている舌さんにお世話になり、とても助かっています。

8月28日、いよいよ会場入り。とても大きく、豪華な会場に驚愕しました。グランドスラムという大きな舞台に来たんだという緊張感で一杯になりましたが、それと同時にこの場所でプレイができるという喜び、高揚感もありました。一時間程で練習を終え、夕食を取り、早めにスケジュールを終了しました。明日の試合は素晴らしい場所でプレイができることを楽しみ、精一杯のパフォーマンスを出せるように頑張ります！」

小林選手

「アメリカ滞在 3 日目。初めての海外なので飛行機から降りる時、とてもわくわくしたけれど入国審査の時英語がまったく聞き取れなくてとても不安になった。一人で来ていたら何もできなかつたらうな一つて思った。支えてくださる方々にとても感謝している。2 日目になって少しずつアメリカに慣れてきた。アメリカでテニスコーチを



しているゼツさんが車で送り迎えをしてくれたり、ヒッティングをしてくださるのでとても助かっている。しっかりと練習ができていてコンディションは良い。自分の最高のプレーができるように、明日の試合までの時間を過ごしたい。」

第5日

29日、試合に時間が違うので大河選手と小林選手は別行動。大河選手は Mr.Zetsu の車で我々は Subway で会場に向かった。小林選手は試合時間に合わせて選手用のバスで移動した。選手用のバスはIDカードを持った選手、コーチのみが無料で利用できる。



大河選手の相手は中国の15歳、Siqi Cao選手である。1stゲーム、大河選手のリターンに固さが目立ち相手に先にリードを許したものの、その後は落ち着きを取り戻し、21からリードを許すことなく、1stセットをとった。2ndセットも42とリードしたものの相手も譲らずタイブレークに。接戦であったが、67(5)で落とした。迎えたファイナル、53とリードし、見ているわれわれも多めに期待したが、相手も強気でポイントを重ねる。マッチポイントもあったが、タイブレークの末、67(5)で落とし敗退が決まった。3時間を超える熱戦であった。

一方、小林選手はフランスの15歳 Mikael Ymer選手と対戦。良いプレーはするものの、今年の予選へのカットラインが150位とハイレベルだったという厳しい現実。ストロークを見ていると Ymer 選手のボールの伸びがものすごい。結局、26、06で敗退した。いつもの自分のテニスが通用せず全く歯が立たなかった自分に悔しい様子である。

他の試合も見たが、女子選手はパワーテニス、ベースラインからでもガンガン打ってくる。相手が前に詰めてきてもお構いなしにハードヒット、次のボールでパスを狙うという展開である。男子も同様であるが、それにテクニックが加わる。そして、目についたのは試合運びが上手いこととメンタルの強さだ。ここが勝負の分かれ目だと思えば強気で攻める、そしてどのゲームも捨てることなく全力でプレーする。また、試合途中で展開を変えられる柔軟性にも驚いた。

試合後の大河さんのコメント

「S.CAO に 6-4,(4)6-7,(5)6-7 で敗退しました。試合を通して、緊張しながらも自分のイメージに近いプレーができたと思います。しかし、リードした場面での得点ができず、流れを完全に引き寄せることができませんでした。せっかくのチャンスを物にすることができなかったのです。

マッチポイントが何本もあった中、勝利を掴み取れなかった事、本当に悔しく思います。サービス等の技術面に加え、精神面でも相手に負けてしまいました。けれども、世界の大きな舞台で海外の選手と互角にプレーできた事は自信に繋がりました。

今の自分の課題をより明確に認識すると共に、新たな発見をすることもできました。結果を出せなかった事はとても悔しいですが、多くの収穫があったと思います。」

そう言えばこの日、朝食をとりに Lobby Floor へ降りるエレベーターの中で錦織圭選手と会った。朝の挨拶はしたが、集中しているように見えたのでそれ以上は話しかけなかったが、こちらの選手と同じフロアに宿泊していたようである。

第6、7日

2人とも負けてしまったので、30、31日は試合観戦である。



30日は大河さんが Ashe Stadium に入って、S.Williams の試合を間近に見てプロ選手のパワーや動きの速さ、優れたテクニックに感心しきり。ポイント毎に歓声をあげて拍手を送っていた。特に Williams の下半身の筋肉のつきように驚き、自分のテニスの向上に何が必要か熱心に見入っていた。



31日は小林選手がメインスタンドへ。まず、シャラポアとウォズニアッキ。シードが上のシャラポアが圧倒的に有利だと思っていたが、ウォズニアッキが強気で

攻めるプレーでファイナルを62でものにした。格上の相手への戦い形に感心していた。次に Federer 選手の試合を見た。彼は大変な人気でコートに入ると割れんばかりの喝采！ポイントを取るたびに大きな拍手がおこる。ショーとして最高の盛り上がりである。ただ、この日の Federer はミスが多く集中を欠いているように思えた。試合が始まった頃から雲行きが怪しくなったせいかもしれない。案の定、ファースト15となったところでスペンドが告げられ、5分後には雷を伴った激しい雨。運営者の的確な判断には驚いた。しかしもっと Federer の良いプレーを見たかった小林選手はとても悔しがっていた。

第8日

1日 これまでゆっくりする時間もなかったので、午前中に Liberty Island へ行き自由の女神を見た。



アメリカ合衆国独立100周年を祝ってフランスから送られたこの像はアメリカの象徴である。島へと渡るフェリーからはマンハッタン島が見え、爽やかな潮風の中、Skyscraperの大きさを改めて感じた。

午後は自由時間にして買い物の時間にあてた。選手二人は5th Avenueのブランド街で若者向けのショップで買い物を楽しんだようである。

この日、現地でコーチを引き受けていただいた Mr.Zetsu からメールが届いた。

US Open Juniors 2014

For the 3rd year in a row, I have had the pleasure of working with Japan's national high school spring tennis champions with the sponsorship of Wilson Japan. Every US Open season, I am very anxious to meet the two players. This year, the players were



Toshiki Kobayashi for the boys and Mayu Okawa for the girls. Coincidentally they belong to the same school so they got along very well.

My first impression of Toshiki was that he was a highly enthusiastic and extremely energetic individual. He also seemed to be very care free and pure, most likely because it was his first ever overseas trip. Although at times he seemed to be forgetful, I feel that you can achieve self

discipline and self awareness through many different experiences in life and I hope that this experience in NY will help him learn more about himself.

During the practices prior to the tournament, Toshiki's personality was on display as he ran around the court for each ball with intensity and passion and working on running drills after practice on his own. Although he just flew in from the other side of the globe, you would have never guessed it by his upbeat personality and enthusiasm on and off the court. I feel that his tennis game will improve greatly if he can generate more pace and control on his serve so that he can set himself up to win quicker points. Right now it seems his tennis play is dominated by athleticism. I definitely feel his tennis game has the potential to be even better with more precision from the baseline and a more well rounded mental game, learning to maneuver bigger and stronger opponents with skill and technique.

Mayu Okawa is another wonderful individual who I actually briefly met about 4 years ago for the first time in New Zealand. She is a very calm, sweet and considerate girl but with a lot of fire on the tennis court especially when she hits her ground strokes. Although she is a year younger than Toshiki, it did not feel that way at all because of her maturity. Her practice sessions were also very under control and she never seemed to get nervous or anxious. She knew exactly what she wanted to practice and how much. I feel that there is still a lot of room for growth in her game but I think she must first start to believe in herself and try to be more confident because I think she can become a special player.

As for the teachers this year, Mr. Kayumi, Mr. Sato, and Mr. Akada, they were a pleasure to work with. They gave me a warm welcome and made me feel like I was a part of their team. The team atmosphere with the teachers and players was really great this year and I think there was positive energy from Day 1.

It has also been a pleasure working with Mr. Fukunaga from Wilson Japan for the past 3 years. He is always trying his best to make sure the teachers, players, and myself are well taken care of and he does a fabulous job.

I'm very blessed and grateful to be a part of this team each year and I thank you all for another wonderful experience.

Toshiki Kobayashi

Qualifying tournament Round 1

In his very first overseas tennis match, Toshiki had a tough match-up with a youngster from Sweden ranked in the top 80 in the world. It was a very one-sided match with his opponent dominating him from start to finish. Toshiki did not give up and tried his best for each and every point but he would need much more than that on this day. To beat an opponent of this caliber, it is necessary to have a flawless game plan, precision, and great self discipline. It was a very hard task for Toshiki to have to play someone of this caliber for his very first international match but I'm sure it is one that he will never forget. Only the best get to play in the Grand Slam tournaments so I hope Toshiki uses this experience to learn and grow as both a player and as a person.

Mayu Okawa

Qualifying tournament Round 1

Just like she had shown me from the first day I met her, Mayu was very poised and under control from the first rally of our warmup early in the morning to the last point of a nearly 3 hour match. It was a match that appeared to be in her hands leading one set up and match point up with serve but was unable to capitalize and was forced into a tiebreak which she lost. Then again in the 3rd set, she went up 4 games to 0 and seemed to be in complete control but once again she would drop a match point and then lose in a tiebreaker for a disappointing loss.

In such a big stage, it was amazing how well she played and how composed she looked. I do believe that if Mayu had a stronger serve, she could have easily closed out the match in the second set and very well could have gotten to the main draw. I think there is a lack of 3 set match play in Japan so maybe the inexperience of how to raise the level of play in crucial moments and learning how to play with momentum to close out a match may have had some effect. In any case, Mayu definitely possesses a very unique talent and I hope she continues to work hard and grow as a player because there is still a lot of potential inside of her.

—Takashi Zetsu

最終日

現地時間2日、帰国日である。名残惜しさもあって早朝に一人でセントラルパークへランニングに出かけた。初日はタイムズスクエアからパーク入り口まで行っていたので、この日はまっすぐパークへ向かった。セントラルパークでは、マンハッタン島は一枚

の岩盤でできているということがよくわかる光景に出くわす。岩山にはなっていないが、平らで大きな岩肌があちらこちらに露見していた。そして、パーク内を走る人の多さ。ヘッドフォンをつけそれぞれのスピードで走っていた。

街中は早朝にもかかわらず人が多い。42 Street や Madison Avenue、そして5th Avenue と通勤者だけでなく、街並みの写真を撮っている観光客も沢山いた。朝食の時にそんな話をしていたら、小林選手が「誘ってくれたら」と言っていた。

10時30分にロビーに集合、大きなバンに乗ってJFKに向かった。空港へは通勤路とは逆方向なのでそれ程混むこともなくあっという間に着いた。チェックインの後、Duty Freeで最後のショッピング。選手は二人とも大きな荷物を抱えて飛行機に乗ることになった。日本までは13時間のフライトである。



終わりに

選手二人の今回の遠征の感想を掲載します。

小林選手

全米オープンジュニアに出場して、世界ではまったく戦えないと感じました。外国人のビッグサーブ、ビッグフォアを相手に今の自分のポイントの取り方だけでは勝てないと思いました。これからはもっとディフェンス力を上げて、ポイントの取り方のバリエーションを増やしていくための練習をしたいと思います。



それと、やはり英語でのコミュニケーションをとれないとこのような所では戦えないと身をもって感じたので英語の学習にも励みたいです。

全国選抜で優勝したことで本当に良い経験ができました。アメアスポーツジャパン様、全国高校体育連盟の皆様、ゼツ様、支えてくださった方々にとっても感謝しています。また、このような舞台に立って、次は勝てるように努力していきます。

大河選手

今回の遠征で私は、数々の素晴らしい経験をさせて頂きました。その中でも、四大大会のコートに立ってプレーをしたという事はこれから先、とても大きな力になると思います。また、USOPENの壮大なエネルギーを感じられた事、プロの試合を間近で観た事、アメリカの文化に触れることができた事、本当に勉強になりました。最後に、選手として選抜して頂き、多大なご支援をして下さった高体連の先生方、ウィルソンの皆様、サポートして下さいました全ての方に心から感謝しています。ありがとうございました。

